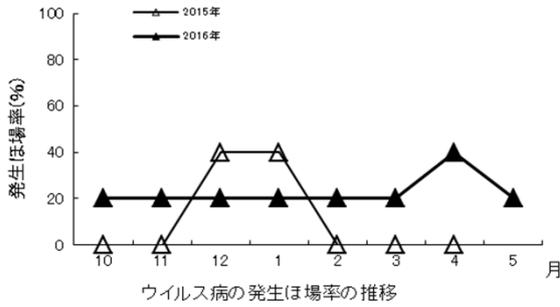
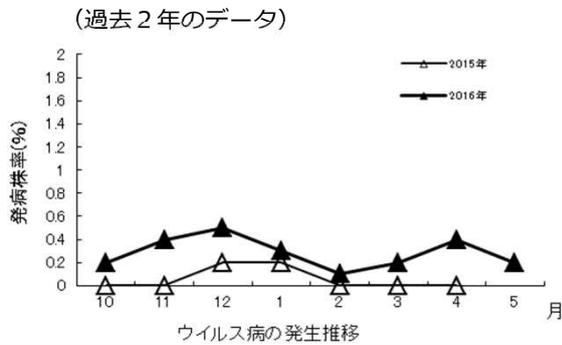
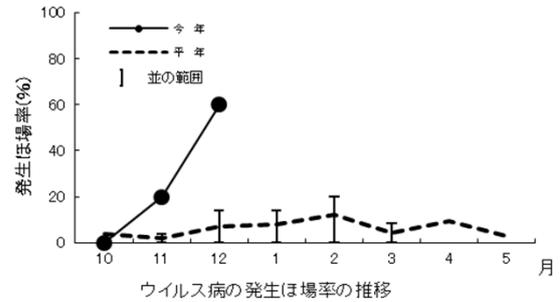
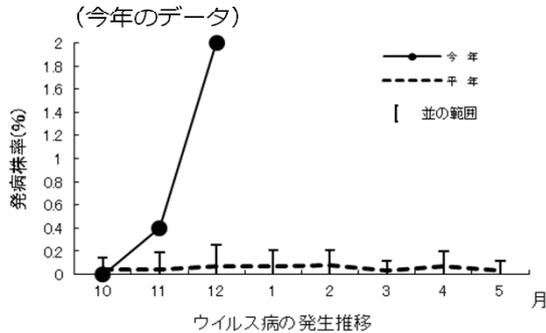


作物	ピーマン	地域	沖縄群島
病害虫名	① ウイルス病(スイカ灰白色斑紋ウイルス以外)		
12月の発生量(現況)		多	
1月の増減傾向		→	
増減傾向の根拠		発病株率の平年の発生推移から、12月と同程度の発生量と考えられる。	

発生量の根拠(調査結果)

- ・ 12月中旬の調査の結果、発病株率は2.0%(前年0.2%、平年0.1%未満)と平年より高かった。
- ・ 今回確認されたのは、Cucumber mosaic Virus (CMV)によるモザイク病であった。



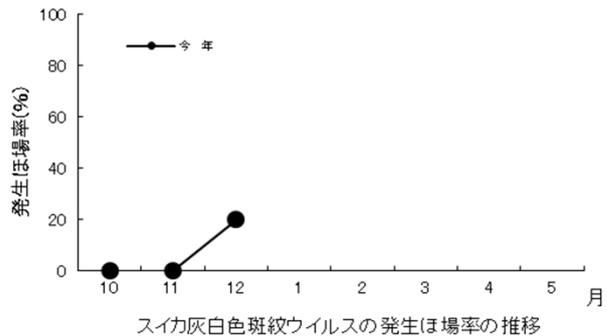
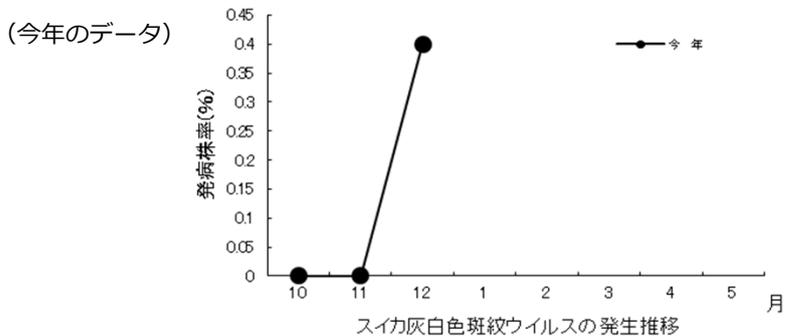
防除のポイント

- ・ Cucumber mosaic Virus(CMV)はアブラムシ類によって媒介されるウイルスである。
- ・ 発病株は伝染源となるため見つけ次第抜き取り、施設外に持ち出しビニール袋に入れて密閉処分する。
- ・ 本病は汁液伝染するので、ハサミや手の消毒・洗浄を行う。

作物	ピーマン	地域	沖縄群島
病害虫名	スイカ灰白色斑紋ウイルス		
12月の発生量（現況）	判定不可		
1月の増減傾向	↘		
増減傾向の根拠	媒介虫のミナミキイロアザミウマが減少傾向であることから、12月より発生量は減少すると考えられる。		

発生量の根拠（調査結果）

- ・ 12月中旬の調査の結果、発病株率は0.4%であった。



防除のポイント

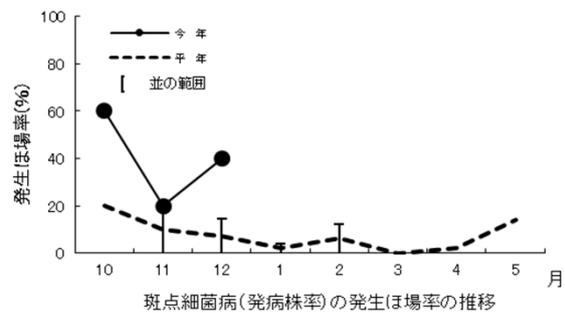
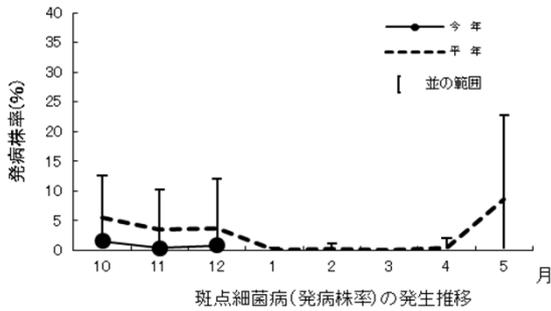
- ・ 本ウイルスはミナミキイロアザミウマによって媒介される。
- ・ 発病株は伝染源となるため見つけ次第抜き取り、施設外に持ち出しビニール袋に入れて密閉処分する。
- ・ 本病は汁液伝染するので、ハサミや手の消毒・洗浄を行う。

作物	ピーマン	地域	沖縄群島
病害虫名	② 斑点細菌病		
12月の発生量（現況）	並		
1月の増減傾向	↘		
増減傾向の根拠	発病株率の平年の発生推移から、12月より発生量は減少すると考えられる。		

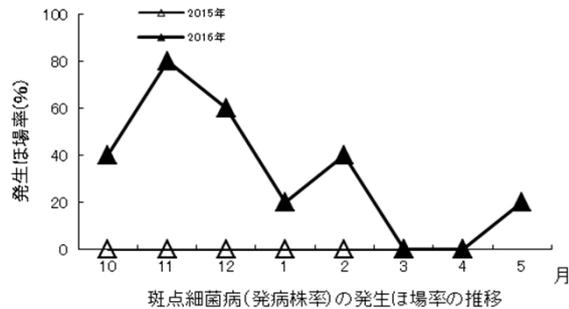
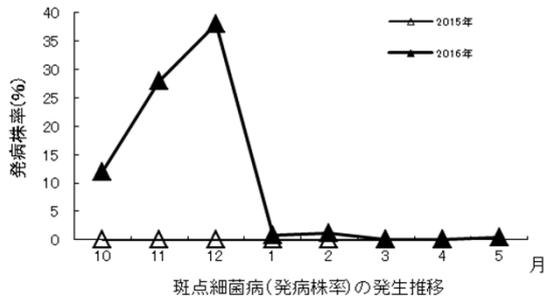
発生量の根拠（調査結果）

- ・ 12月中旬の調査の結果、発病株率は0.8%（前年38.0%、平年0.1%未満）と平年並であった。

（今年のデータ）



（過去2年のデータ）



防除のポイント

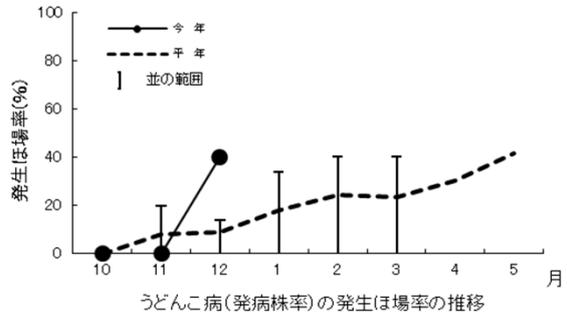
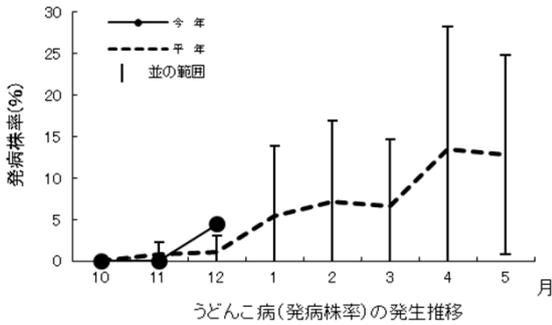
- ・ 本病は主に葉、葉柄に褐色の斑点を形成し、時には果実や果梗にも被害を出す。
- ・ ハウスでは排水や換気を良くし、多湿を避ける。
- ・ 被害植物の残さは、施設外に持ち出し処分する。

作物	ピーマン	地域	沖縄群島
病害虫名	③ うどんこ病		
12月の発生量（現況）	やや多		
1月の増減傾向	↗		
増減傾向の根拠	発病株率の平年の発生推移から、12月より発生量は増加すると考えられる。		

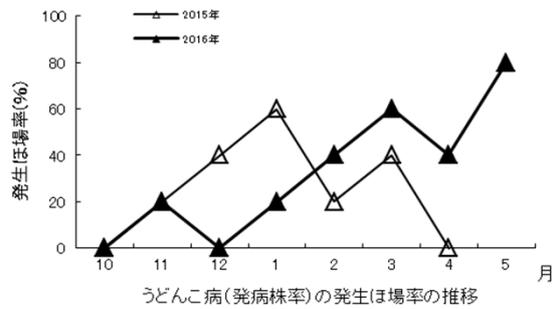
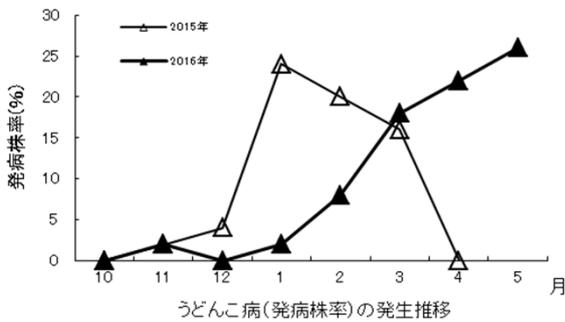
発生量の根拠（調査結果）

- ・ 12月中旬の調査の結果、発病株率は4.4%（前年0%、平年1.1%）と平年よりやや高かった。

（今年のデータ）



（過去2年のデータ）



防除のポイント

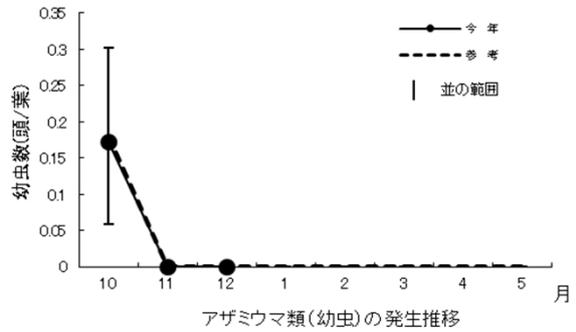
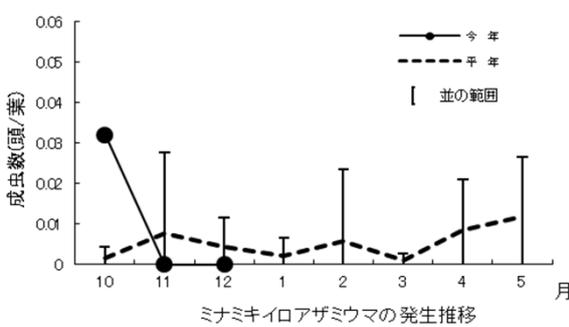
- ・ 通風が悪いときに多発生しやすいので、老葉や病葉を除去し、透光通風を良くする。
- ・ 多湿条件で発生し、その後乾燥が続くと被害が拡大するため、湿度管理に注意する。
- ・ 今後、発生が増加すると考えられるので防除を徹底する。
- ・ 多発すると防除が困難となるので、葉をよく観察し早期発見・防除に努める。

作物	ピーマン	地域	沖縄群島
病害虫名	④ ミナミキイロアザミウマ		
12月の発生量（現況）	(発生なし)並		
1月の増減傾向	↘		
増減傾向の根拠	成虫数の平年の発生推移から、12月より発生量は減少すると考えられる。		

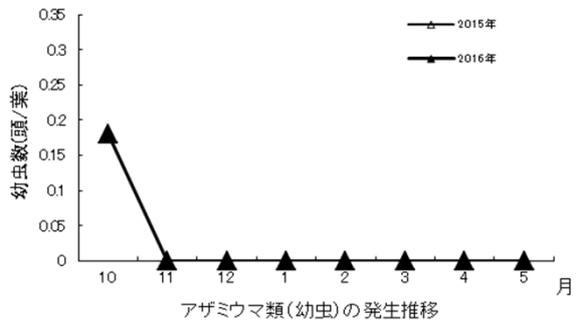
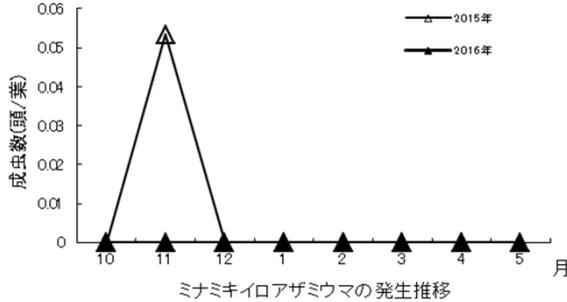
発生量の根拠（調査結果）

- ・ 12月中旬の調査の結果、葉当たり成虫数は0頭(前年0頭、平年0頭)と平年並であった。

(今年のデータ)



(過去2年のデータ)



防除のポイント

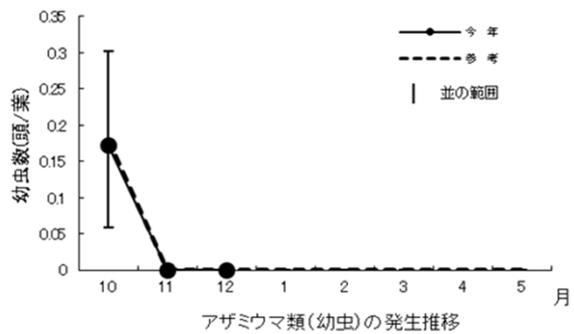
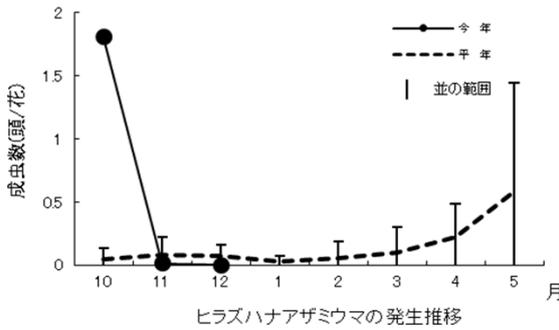
- ・ 本種は新葉や果実を吸汁により加害する。新葉は縮れ、果実にはコルク化した線状の傷が付く。また、スイカ灰白色斑紋ウイルスを媒介する。
- ・ 施設の開口部には防虫ネットを張り飛来侵入を防ぐ。
- ・ 繁殖力が高く多発すると防除が困難になるため、青色粘着板等を用い初期発見・初期防除に努める。
- ・ 発生源となる周辺雑草の除去に努める。
- ・ 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。
- ・ 天敵を利用している施設では、薬剤散布の際には天敵に影響の少ない薬剤を選定する。

作物	ピーマン	地域	沖縄群島
病害虫名	⑤ ヒラズハナアザミウマ		
12月の発生量(現況)	(発生なし)並		
1月の増減傾向	→		
増減傾向の根拠	成虫数の平年の発生推移から、12月と同程度の発生量と考えられる。		

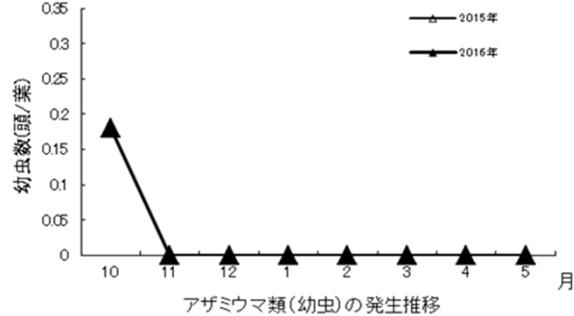
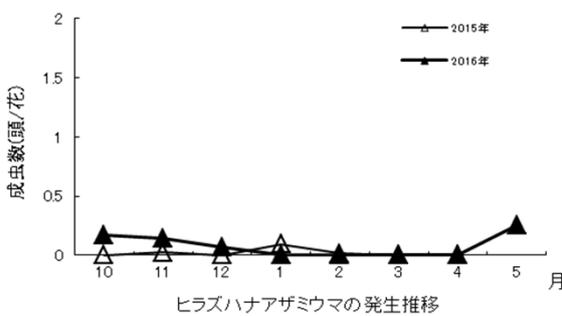
発生量の根拠(調査結果)

- ・ 12月中旬の調査の結果、花当たり成虫数は0頭(前年0.1頭未満、平年0.1頭未満)と平年並であった。

(今年のデータ)



(過去2年のデータ)



防除のポイント

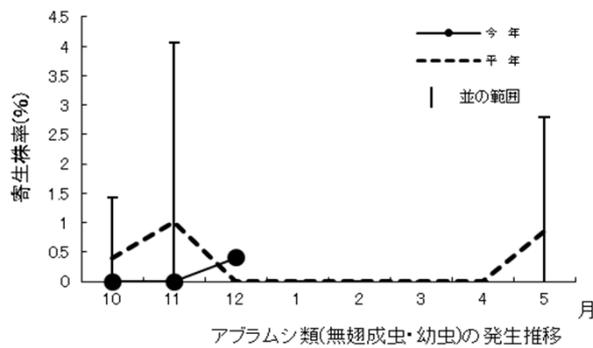
- ・ 本種は主に花に寄生し、多発すると産卵により果実へ夕部や果梗部が黒変する。
- ・ 施設の開口部には防虫ネット等を張り飛来侵入を防ぐ。
- ・ 繁殖力が高く多発すると防除が困難になるため、初期防除に努める。
- ・ 発生源となる周辺雑草の除去に努める。
- ・ 同系統薬剤の連用を避ける。
- ・ 天敵を利用している施設では、薬剤散布の際には天敵に影響の少ない薬剤を選定する。

作物	ピーマン	地域	沖縄群島
病害虫名	⑥ アブラムシ類		
12月の発生量（現況）	多		
1月の増減傾向	→		
増減傾向の根拠	寄生株率の平年の発生推移から、12月と同程度の発生量と考えられる。		

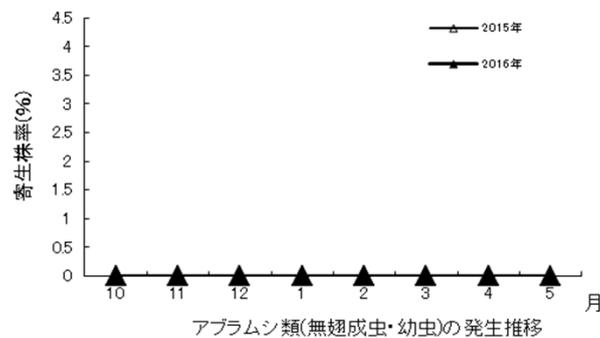
発生量の根拠（調査結果）

- ・ 12月中旬の調査の結果、寄生株率は0.4%(前年0%、平年0%)と平年より高かった。

(今年のデータ)



(過去2年のデータ)



防除のポイント

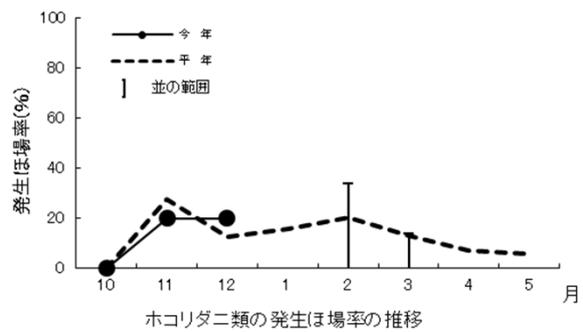
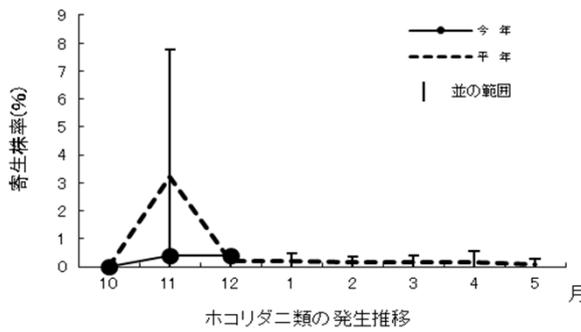
- ・ 本種はウイルス病を媒介する。
- ・ 施設の出入口や側窓は0.6ミリ以下のネット等で被覆し、有翅虫の侵入を防ぐ。
- ・ 施設周辺の雑草は本種の発生源になるため除去する。
- ・ 発生初期は局所的に分布するので、被害葉を除去し、スポット散布を行う。

作物	ピーマン	地域	沖縄群島
病害虫名	⑦ ホコリダニ類		
12月の発生量（現況）	並		
1月の増減傾向	→		
増減傾向の根拠	寄生株率の平年の発生推移から、12月と同程度の発生量と考えられる。		

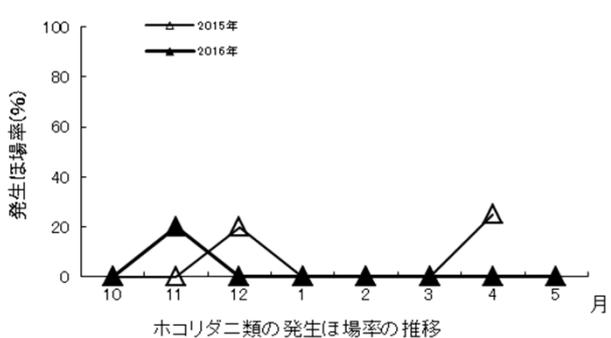
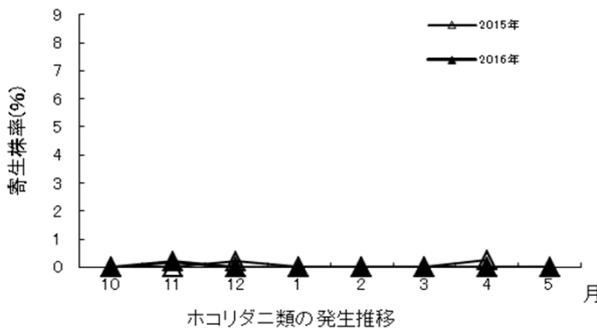
発生量の根拠（調査結果）

- ・ 12月中旬の調査の結果、寄生株率は0.4%(前年0%、平年0.2%)と平年並であった。

(今年のデータ)



(過去2年のデータ)



防除のポイント

- ・ 本種は心葉部および果実を加害する。被害葉は十分に展開せず、縮れ、葉の周囲から裏側へおわん状に曲がり、葉裏は光沢を帯びる。被害がひどい場合は生長点が黒変し芯止まりを引き起こす。果実では果皮がサメ肌状になる。
- ・ 短期間で高密度になりやすいになるため、早期発見・防除に努める。
- ・ 施設内のナス科雑草は発生源となるので除去する。
- ・ 薬散は葉裏へ丁寧にいき、生長点付近や未展開葉に潜っている個体へ薬剤がかかるようにする。
- ・ 天敵を利用している施設では、薬剤散布の際には天敵に影響の少ない薬剤を選定する。